

洋書輸入協会会報

VOL. 18

NO. 12

(通巻212号) 昭和59年12月

理事会報告

11月12日(月)

(一) 10月分収支計算・予算対比表

総務委員会の松井幸雄氏(丸善)の報告を承認した。

(二) 規約改正

時間をかけて検討していくこととなった。

(三) ALPSP 代表团および西ドイツ出版社代表团との話し合い

前者については、British Council の Gillian M. Hepworth 女史から礼状の届いたことが報告された。会議の持ち方については、今後検討すべきものがあるとの意見が確認された。また、外国出版社代表团が来日する際には、事前にその代表団員名を会員に知らせるようにすることとなった。

(四) 文化厚生委員会

はぜ釣りは申込者が少なく、中止となったことが報告された。

(五) その他

11月26日(月)

(一) 入会申し込み

ビューロー ホソヤ(代表者 細谷愛子、〒107 東京都港区赤坂1-1-2 フレンチバンクビル9階、電話03-589-3775/6)の入会(賛助会員)を承認した。

(二) 新年会

明春の新年会の会費、招待客について打合せた。

(三) その他

ALPSP ミッションと理事会との懇談会

11月5日(月)3時から5時まで岩波ビル集会室において ALPSP ミッションと理事会との懇談会がひらかれた。英国側は別記の団員のほか、British Council の Gillian M. Hepworth 女史と西田俊子女史とが出席した。

会は、小林英一理事長代理(丸善)の歓迎の挨拶ではじまり、主として英国側の質問に日本側が答える形で進められた。そのなかで、日本はハイ・レベルの学術書、語学書などのよいマーケットであること、外国のセールスとのちがい(セールスマンの訪問、approval system など)、大学などでジャーナルの集中管理がすすめられ、予約部数の減少をきたしていること、販売促進の対象は図書館員ではなく、教員であること等が説明され、日本側からは、出版情報は出版の3-4カ月前には入手したいこと、また雑誌のカatalogは9月上旬に作られるので、出版社の価格設定は6月-7月にしてほしいと要望された。

6時から British Council でレセプションが盛大にひらかれた。

理事会報告..... 1	書籍展示会のお知らせ..... 8	来日外人名簿..... 9
オンライン時代における情報流通 III... 3	新入会員のお知らせ..... 8	総代理店ご案内..... 9
外国出版社紹介 No.106 7	海外ニュース..... 9	広告..... 10

ALPSP ミッション団員名簿

Donovan, Bernard Thomas
 Journal of Endocrinology
 Journal of Reproduction and Fertility
 Page, Gillian Mary Pageant Publishing
 Oakeshott, Priscilla Lois Angela
 Plato Publishing
 Oadir, Shahid (Mr) Third World Foundation
 Daley, David Patrick Caird
 Mechanical Engineering Publication Ltd.
 Long, Maurice British Medical Journal
 Benjamin, Michele
 The British Psychological Society
 Wakelam, Keith Laurence
 The Metals Society
 Phillips, Susan Caroline
 Clarke Associates Ltd.
 Clarke, Malcom David
 Orbit Services Ltd.
 Rees, Christpher John
 Pharos Rare Books Ltd.
 Coombes, Gregory John Martin
 Hay Cinema Bookshop Ltd.
 Moore, Francis Felix Perris
 Mindata Ltd.
 De La Bedoyene, Charlotte
 Search Press Ltd.
 Southam, Brian Charles
 The Athlone Press
 O'Hare, Margaret (Miss)
 The British Library
 Davies, Gloria (Mrs)
 Variorum Publications Ltd.
 Turner, Eileen (Mrs)
 Variorum Reprints
 Pinter, Francis Francis Pinter (Publishers)
 Fenton, Lawrence Fentone Music Ltd.
 Tomes, Brian Kenneth
 Ormonde Publishing Ltd.
 Welham, Robert
 Royal Society of Chemistry

西ドイツ出版社代表団と理事会との懇談会

11月8日(木)2時から4時まで竹橋会館において西ドイツ出版社代表団と理事会との懇談会がひらかれた。代表団員の名簿は別記のとおりである（懇談会にはこのうちから10名が出席した）。

会は、小林英一理事長代理（丸善）の歓迎の挨拶ではじめられ、前半は西ドイツ側の質問に対して日本側が答えたが、後半は個別会談に切りかえられた。西ドイツ側の質問のうちには、宣伝物はエンド・ユーザーに出版社から直接送った方がよいのではないか、出版社との直接取引きと輸出商を通す取引きとの何れをとっているか、「ベルゼンブラット」誌は役に立つか等があった。日本側から、英語での出版を望むという意見が出されたが、西ドイツ側からは、1億の人口をマーケット（東西ドイツ、オーストリア、スイス）に出版しているのを理解してほしいとの回答があった。

西ドイツ出版社代表団員名簿

Werb, Volker	Verlag Ferdinand Schöningh
Niendieck, Friedrich	Compact Verlag
Ablasmayer, Curt	BLV Verlagsgesellschaft
Recher, Bernhard	Albert Müller Verlag
Ruprecht, Dietrich	Vandenhoeck & Ruprecht
Hüthig, Holger	Dr. Alfred Hüthig Verlag
Hüthig (Mrs.)	
Roggenbuck, Ingeborg	Rudolf Müller Verlagsgesellschaft
Vollmer, Elsbeth	" "
Georgi, Friedrich	Paul Parley Verlag
Römer, Karlheinz	" "
Lechelt, Malik	Georg Thieme Verlag
Peter, F. W.	Lawyer and Legal Advisor
Peter (Mrs.)	of the Börsenverein des deutschen Buchhandel
Saur, Lilo	K. G. Saur Verlag
Kraft, Brigitte	" "
Becker, Barbara	Ausstellungs- und Messe-GmbH des Börsenvereins des deutschen Buchhandel

オンライン時代における情報流通 III

——書店はどう変貌するか——

(講演 昭和59年7月27日(金) 於：学士会館)

日本科学技術情報センター業務部長 小林 和雄

3. 情報源と情報末端利用者とを直結する ニューメディア教育

データベースをいかに使いこなして行くかという場合に、文献データベースの場合にはかなりプロフェッショナルな知識とこれを活用する資質が要求されます。そこで、いろんな教育が必要となります。多重複合ファイルの検索を前提とする書籍の選択——図書館でいう選書——の場合に、ユーザーが求めている書籍に如何に正確にアプローチするかの教育が必要なのではないかと考えています。これは、ある面で文献検索の応用問題であると思います。

3.1 検索代行から直接検索指向へ

データベースから文献を抽出する場合に、マシンとの対話が必要になります。人間というのは、どちらかと言いますと意味論で物を判断している。機械というのは、記号論で判断する。ここが非常に大きな問題でございます。人間が意味論で判断する場合に、上司と部下との間で、「昨日のあの仕事はどうなっているの？ 例の様にやっておいてくれたか。」などという第3者が聞いたらさっぱり解らぬやり方でこと足ることが多いわけですね。そういうことが機械に対し可能かという、全く不可能で、七面倒臭い手続きが必要とされるわけです。つまり、一方で自然語検索ということと、もうひとつは、辞書に決められた特定の言葉を使つての検索という双方の技法を活用することが必要になります。ということは、機械が理解できる様な状況に検索語を直しておいて検索するのです。これは皆さん既にご存じだと思いますけれども、再現率とか適合率とかをどうやって良くするかということが議論の中心になります。

つまり、情報検索の戦略については相当の知識がいるわけですが、その知識というのは、専門性に裏づけられたものでなくてはなりません。

書誌データベースにしても、単に書籍の標題だけで

なくて、書籍の主題内容を現わすキーワードをデータベース中にとり込むべきだというような考え方もあり、便宜対応として書籍の単に標題だけではなく、目次の入力を行なったらどうかといった考え方もオーソドックスな対応策として将来かなり具体化する可能性があります。

入力負担を考えると目次を自然語で入力すれば、それは書籍オーダリングに際して強力な判断材料となります。こういうように書籍入手についての判断材料を、端末材をもっていて直ちに確認できることになれば、書籍データベースに関して中間的流通業者に代行検索を依頼する可能性は弱まります。文献データベースについては代行検索については是否の議論がありますが、世界的な傾向としては代行検索の密度が増えていくように感じられます。しかしこれは、他人にまかせても差し支えない情報に関して代行検索を行なうという側面を持っていて、企業秘密多き開発テーマをフリーハンドで代行検索にゆだねるということにはなりません。現在JICSTは代行検索を認めていないのですが、公的機関に対して一部緩和措置をとっており、例えば神奈川県工業試験場など、地方自治体の技術的情報センターなどには、来所された情報ユーザーに対して検索指導することを認めています。こういう機関にきて、実際に検索する人は、社内に検索用端末がなく、JICSTの各支所、専門センターやこうした公共機関を訪れて、その人に手とり足とり習いながら、検索をする人がかなりいましたが、神奈川県工業試験所では、こういうユーザーが減っています。これはつまり、出向いて、県の工業試験場において指導を受けて長くやっていたという人が、情報検索をやらなくなったとは考えられないわけですね。これは実は、パソコンなどの検索端末が普及するに及んで、自社の端末利用により直接おやりになるようになった。神奈川県工業試験場に出向いてやっておられた方は、神奈川県の中小企業グループが多く、こうした企業群の多く

が、JOISを使ってみるとこれは自分の所へ端末をおいて使いたい、自分の所で端末を購入しよう、という動きだと思います。ですから、これは動きとしては、従来の端末についての外部依存型から直接検索指向へという動機づけがあることになります。

こうした動きに拍車をかける考え方は先に申しあげたように企業秘密の問題です。

3.2 直接検索から一部代行検索利用

次に、逆の現象を申しあげましょう。

例えば、最近ある一部のメーカーでは検索の量が増えてしまって、その端末を使って検索して行くのに追いつかない、という状況でございまして、その検索をするオペレータを育てるということになりますと、正規の職員を採用すると諸間接費を含め年間で500万円の支出になります。こうなりますと、やはり検索体制というものをもう一度考え直してみなければならぬ。そこで、機密性の問題は非常に大きな問題でございしますが、比較的機密性の希薄なテーマは外注検索をする。非常に機密性のあるものは社内で処理する、という仕分けも生ずることになります。

多重複合ファイル利用についての検索代行指向——これも一つの動きでございまして、ファイルをたくさん使いこなすことをプロフェッショナルにしたい、ということで多重複合ファイルの検索をキャッチフレーズにしている代行機関がドイツにございます。いろんなファイルを使いこなして行くということは、ファイルの特性を知っておらなければならない、それはなかなか大変なことなのです。ですからこうしたことをセールスポイントにした Pharma Dokumentation Service というドイツでの検索代行機関が実績をあげ、こうした動きが日本にも少しづつ芽ばえているのをみますと、直接検索と代行検索の双方が根をおろしてきつ、あることを感じます。

3.3 書籍データベースの端末利用者は如何なる層へ定着か？(書籍ユーザーからのオーダーは如何なる層から行なわれるのか？)

書籍データベースの端末利用者は書籍流通の如何なる層に行くのだろうか？ つまり端末ユーザーというのが、例えば、今の輸出入をおやりになっている所に端末を置いて、そしてたいて、エンドユーザーの所で本をお使いになるから発送するという風になるのか、あるいは

は現実に、ということが問題になる訳です。書店にリレート端末が行ってしまうのか。日販と書店とのかかり合いでは、書店の方に端末設置が定着する可能性があるわけですね。ですから、輸入書籍について外国とのかわりが一体どうなって来るのか、という疑問が生ずるだろうと思うのであります。極めて現実的な切り切り方をすれば、ダイヤルオーダーを最末端のエンドユーザーで使うことがナショナルミニマムになる。つまり、Wiley Catalog というのは、DIALOG に収納されている訳ですから当然研究所のライブラリアンが使えばストレートオーダーリングできるわけですね。ですから、流通過程の如何なるレベルでもって端末が使われて行くのだろうか、という話題がございまして。通信回線の開放ということが段々末端の研究者に近づいて行くことによって、中間の流通段階の不要論が起る。つまり、研究者や研究の補助者にまでオーダーリングの直接的行動が行って行くことになります。ただし、もしそれを遮るものがあるとすれば、多重複合ファイルの利用というのは非常にノウハウを必要とし大変だという考えです。10も20もデータベースを使いこなすのは大変だ、だから、これはプロフェッショナルな本屋さんや、本屋さんもデータベースを使いこなさないとすれば、それを流通機構の最先端にいる方にまかせなければならない。そこにプロフェッショナルな業務として位置づけられる必然があると思います。

文献データベースの実績から見ると、非常に書籍データベースも多様化して行くという感じがいたしますけれども、いづれにいたしましても、多重複合ファイルの存在が将来代行検索業者を非常に競争させる方向に誘導するのではなかろうか、という風に考えております。

4. 書籍流通コストの低減は、異業種交流ならぬ同業種交流(書籍流通業の特異性)

次に、書籍流通コストという面をみると、日本は書籍流通コストが非常に安い。そのマージンは書店まわりの20%、取次ぎまわりに8%、併せて28%になり、アメリカの場合は、購読部数に応じて取次ぎマージンが異なり、35%から40%あるいはそれ以上にまで行ってしまう、ということで、流通コストは日本の方が安くなります。ところが、日販、東販以外で比較的大手で、書店とオンライン網を本年11月よりつなぐ予定の大阪屋はかつて60%

代の後半だったのでしょうか、中堅取次店の結束をはかるために中堅5社が共同で共同受品センターを作ったことがございます。これはどういうことかといいますと、東京都内配送車が個別に動くことになると、人手不足の面や経費の面で大変なので5社共同して、集配システムを作り、配車台数を極端に言えば5分の1に減らし経費節減に充てるということで、実際にこれを実現し協業化の成果を得たという実績が示されています。つまり、集金のコストが4分の1位に落ちてしまった、という実績がございます。最近、よく異業種交流ということで、メリットを上げるには業種の違うものが交流したら良いという考え方があります。その一つが皆さんご存知の如き異業種合併に象徴されるような合併だと思えます。京セラ/ヤシカつまり、京セラという一つのセラミックメーカーと、それにエレクトロニクスに強いということで、ヤシカが異業種合併を行なったわけです。昔は、合併と言うと同業種だったのですが、異業種のメリットを発揮して協力して行こうというのが最近の動きです。異業種交流が盛んな神奈川県に顕著です。これは実は発想は関西で、特に京都から四国にかけて、異業種交流が強く、西高東低ということになっていたのですが、最近では神奈川県が非常に盛んなようです。そういう異業種交流でもち直して来る企業がある中で、どうしても書籍流通業を見た場合に、先程の、中堅取次店の共同受品センター、これはまさに、同業種交流ですね。そういう面では、書籍流通業は、特異性を持っている。同業種交流といったスケールメリットを追求するパターンが流通業では、主流になるのだ、という感じが致します。

流通コストの低減化というねらいから、データーベースの巨大化思想がADONISの場合は具体化したものですから、独禁法とのバランスで、ADONIS構想が後退したというお話をしましたけれども、私は余り焦って出版社をまとめあげて行く、つまり世界の6つの出版社でもってやれば何とか動かせるだろう、というような同業種独占的交流の協業化は問題が残ると思います。こういう大きな所が協業化すると独禁法にひっかかるということで、あえて失敗した例としてあげたわけですが、小さい所が協力すれば共同受品センターの様に効果が出て来るという感じでございます。

5. 流通情報は果して十分に吸収・消化されているか？

次に、流通情報は果して十分に吸収されているか、というお話をしたいと思います。

郵政省の通信白書によるものですが、第1表は、日本経済新聞の紹介した“メディア別情報流通量”というものでございます。

ここで問題提起をしたかったのは、情報が昭和35、40、45年と経過するに従って、提供情報の吸収がどう変るか、ということです。つまり、供給量と消費量を見て頂きまして、消費量を供給量で割る、という措置を講じますと、これは、情報の吸収がどういう風に経時的に推移して行くか、ということが判ります。

表の最後で消費量、供給量を示す欄（昭和45年のところ）の合計を見ますと、消費量のビットで行きますと、合計で 303.7×10^{16} ビット、供給量は 2571.7×10^{16} ビットとなっております。それは、全体の情報に関し、昭和35年、40年、45年といった経緯をとりますと、25.5%から17.1%、11.8%に減少することが示されます。つまり、情報が氾濫してしまって効率が悪くなった、というお話です。こういう状況の中で、新聞、テレビに関しては、余り極端な吸収量の変動はない、という感じでございます。雑誌について同じような比率調査をしますと、35年は67.7%、40年は55.5%、45年は69.2%ということで、安定状態でございます。つまり、雑誌については、年次経緯をみて無駄な状況が拡張されていないということです。提供サイドから見ても、消費サイドから見てもそう云えましょう。書籍だけを取り出して調査しない、というのは残念なのですが、恐らく書籍は教育の中に含まれると思います。もし教育の中に含まれるデーターだとすれば、非常に効率が良い、という感じがいたします。これは、流通している情報が、どれだけ有効に役立たされているか、を見るパラメーターとしておもしろいのではないか、ということで紹介したわけです。

なお、この表では情報の量をビットとして扱っていますが、多分こういう量はピンとこないと思いますので、蛇足ながら解説しておきましょう。

歴史上記録媒体はいろいろな過程を経て今日までに至りましたが、

粘土板は	1 g 当り	10ビット
紙を使つての印刷物は	ページ当り平均	10^4 ビット
新聞は	8 ページ当り	10^6 ビット
磁気テープ	1 本	10^6 ビット
光ディスク	1 枚	10^9 ビット

(従って光ディスクでは通常書籍換算で1万ページ分収納)といった具合に、情報の収納効率はあがっています。我が国では年間に週刊誌、月刊誌を合せて20億冊刊行されるといわれており、これは雑誌1冊の平均ページを200ページとして

$20\text{億冊} = 2 \times 10^{10} \text{冊} \rightarrow 2 \times 10^{10} \times 200\text{page}$

従って印刷物ページ当り 10^4 ビットの先に示した値を適用すれば

$\rightarrow 2 \times 10^{10} \times 200 \times 10^4 \text{ビット}$

つまり 4×10^{16} ビットとなり、第1表の 3.9×10^{16} (45年)

の値とほぼ相似になります。

新聞については、現在の発行部数、総ページなどを勘案すると、やはり第1表の 61×10^{16} (45年)は、妥当な値だと思います。

なお、第1表では情報の供給量に対して、流通情報量というのが別欄で示されていますが、これは一部の新聞を家族数人で観たり、会社で購入している新聞については部内の何人かが観たり、あるいはテレビについてもそうした多くの人が観ることによって、供給量を何倍かした増幅効果が生じます。

興業の場合には、観客席が一杯に埋まらないなど、むしろ流通情報量は、供給予定量より下がることになります。

もっとも満席になり、立ち観がでるような盛況では別ですが……。

6. まとめ

JICSTがオンラインの中で育てて来た情報ニーズの状況を見ますと、オンラインの定着はものを搜すだけでなく、物を発注する、つまりオーダリングの思想が全面に出てきたことは確かです。オーダリングをやる場合に、ということが必要になるかということ、データベースは非常に巨大化されていれば話は別ですが、どうもこういうご時勢でございまして、各データベースプロデューサーというのは、自分のところに特徴を持たそうというので、巨大データベースはある程度限定されて来る。特に書籍の場合に、例えばアメリカでは、大体年間15億冊位、日本では年間10億冊位になりますか、とにかくそういう程度の量が刊行されるわけですから、それを全部一ヶ所でデータベース化して

いくということは大変だろうと思います。そうすると、例えば、Wiley Catalog/Onlineのようなものがたくさん登場してくる可能性はございますけれども、やはりそれを使いこなして行くというのは、多種複合ファイルにどう対応するか、という問題そのものではないか、と思います。多種複合ファイルへのアプローチを検索代行の形で行うという時代に、つまり検索をプロフェッショナルに行うという時代になって来ましたが、それが果たして、書店のレベルで行われるのか、あるいは、従来の書籍流通段階で対応して行くのか、ということが気になる所です。場合によっては、大研究の図書館ではライブラリアンがおやりになる所もあると思います。そうすると流過程の極めて短絡した現象が起り、まさに、流通経路は出版社からエンドユーザーへと一挙に縮まってくるという大革命が起ります。そうしたことへの対応を余儀なくされるのが、我々が当面している「オンライン時代」なのです。

(完)

講師略歴の紹介

昭和32年東京工業大学繊維工学科卒、昭和32年 JICST 入所、情報部化学部門企画室電算導入担当、情報部環境公害主任情報員、情報部情報課長、業務部業務課長、東京支所長を経て今年5月より業務部長にご就任。

洋書輸入業界の為に長時間内容のあるご講演ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。オンライン時代を迎えて、書店の変貌につき概要と展望に些かの示唆をお汲みとり頂ければ幸いです。

和書業界の TONETS、NOCS の如くオンライン情報検索もダイアルオーダリングの時代に入りました。これは時代の潮流でしょう。時代の転換期にはハイテク流通システムの変革が起り、ニュービジネスが模索されます。問題はこれを我業界が取込み得るか、他業界からの侵蝕に甘んじるか、ということになります。拱手傍観せずお互のエゴイズムを排し、関連ニュービジネスは業界内で育成するよう、各社が最大限の努力をしようではありませんか。パイの賑らまぬ業界の繁栄の為に!!

文教委員長 紀伊國屋書店 吉本記

第1表 主要情報メディア別の情報流通量

	消 費 量 (ビット)			供 給 量 (ビット)			流 通 情 報 量 (ビット)		
	昭和35年 ×10 ¹⁶	40 ×10 ¹⁶	45 ×10 ¹⁶	35年 ×10 ¹⁶	40 ×10 ¹⁶	45 ×10 ¹⁶	35年 ×10 ¹⁶	40 ×10 ¹⁶	45 ×10 ¹⁶
テ レ ビ	17.2	83.4	125.4	470	1,160	2,280	878	2,700	7,200
教 育	164	160	145	164	160	145	312	362	455
新 聞	5.0	5.2	5.3	41	50	61	334	365	365
雑 誌	2.1	2.0	2.7	3.1	3.6	3.9	89	84	114
ラ ジ オ	1.3	0.4	0.4	95.3	10.3	12.0	81	25	25
人的輸送 (郵便・印刷・etc)	1.4	2.3	3.4	1.4	2.5	3.4	33	56	76
録音・レコード etc	0.6	0.9	1.1	1.0	2.0	3.3	24	35	45
会 話	1.5	1.7	1.8	1.5	1.7	1.8	—	—	—
興 行	1.0	1.1	1.0	19.1	18.5	11.5	2	3	3
そ の 他	16.3	15.9	17.6	17.7	18.0	27.5	3	30	4
▽ 計	210.4	242.9	303.7	814.1	1,423.4	2,571.7	1,779	3,687	8,268

郵政省通信白書昭和57年版を引用して日本経済新聞社が紹介したメディア別情報流通量

外国出版社紹介 No. 106

ノートルダム大学出版局 (Univ. of Notre Dame Press)

P. O. Box L, Notre Dame, IN 46556

(Distributed by Harper & Row Pubs. Inc.)

1948年、ノートルダム大学で行なわれる宗教と神学の授業のための教科書を出版するため創設され、現在では、世界でも最大のカトリック大学出版局として認められるまでに成長した。中心としている分野は思想、哲学、神学、政治、社会科学、経済、現代研究である。内容の高さ、出版の質の良さのおかげで、現代の最もすぐれた上記分野の著者を擁することが出来ている。又、歴史上重要な学者たちの古典の出版を、復刻あるいは維持し続けることを、もう一つの柱としている。

1961年から74年にわたって、第一期発展時代がネブラスカ大学から参画した Emily Schossberger 女史の指揮の下で進められた。尊敬を集める学者たちによる執筆と志を大きく抱いた企画は、この出版局に著しく名声を与えた。1974年と78年の間に、規模も売上げも2倍になり、アメリカで最も成長の早い大学出版局と

なった。この第二期発展はミシガン大学出版局から移局した James R. Langford の大いなる努力のおかげである。又、その後、積極的な買取りプログラム及びテクニカルな出版から選り抜いたタイトル出版への移行をおこなった結果、2年の間に58%の売上増を記録している。

現在約600点のタイトルが出版されており、年間35ないし40の新刊を出している。すぐれた執筆者の中には、Mircea Eliade、Elie Wiesel、Robert M. Brown、W. Falkner、F. Bergmann、S. Hauerwas、A. Kazin などがいる。ノートルダムの出版物は、アメリカの400以上の大学において教科書として採用されている。又、より積極的な海外市場開拓のためにハーパー&ロウ出版社と提携し、着々と世界へ販路を拡めている。

(M. K)

書籍展示会のお知らせ

第5回メキシコ国際書籍展 1985年3月2日—10日

5th International Book Fair of Mexico.

Palacio de Minería, Mexico City, Mexico.

ブリュッセル国際書籍展 1985年3月9日—17日

International Book Fair of Brussels.

Centre International Rogier, 32 Rue du Progrès,

1000 Brussels, Belgium.

第22回ボローニャ児童書展 1985年3月28日—31日

22nd Bologna Children's Book Fair.

Bologna Fair Grounds, Bologna, Italy.

ケベック国際書籍展 1985年4月23日—29日

Quebec International Book Fair.

Quebec Municipal Convention Center, Quebec, P.Q.,
Canada.

第12回エルサレム国際書籍展 1985年5月5日—10日

12th Jerusalem International Book Fair.

Jerusalem Convention Center, Jerusalem, Israel.

第30回ワルシャワ国際書籍展 1985年5月24—27日

30th Warsaw International Book Fair.

Palace of Culture and Science, Warsaw. Poland.

第85回アメリカ書籍商協会大会・展示会 1985年5月25

日—28日

85th American Booksellers Association Convention
and Trade Exhibit.

Moscone Convention Center, San Francisco, Calif.,
U.S.A.

第104回アメリカ図書館協会協議会 1985年7月6日—
11日

104th American Library Association Conference

Hyatt Regency Chicago, Chicago, Ill., U.S.A.

第5回モスクワ国際書籍展 1985年9月10—16日

5th Moscow International Book Fair.

Fairgrounds, U.S.S.R. Exhibition of Economic
Achievements, Moscow, U.S.S.R.

第2回カイロ国際児童書展 1985年11月27日—12月9日

2nd Cairo International Children's Book Fair.

International Fair Grounds, Nasr City, Egypt.

新入会員のお知らせ

このたび下記のかたが入会されましたのでお知らせし
ます。お手もとの会員名簿にご記入ください。

賛助会員

ビューロー ホソヤ 代表者 細谷愛子

〒107 東京都港区赤坂1—2—2

フレンチバンクビル 9階

☎(03)589—3775/6

洋書輸入協会会報

200号記念合本 (No.101~200) 限定版 ¥4,300

送料 ¥500

100号記念合本 (No.1~100) ¥3,500も若干部数ございます。

お早目にお申し込みください。

「英国テキスト販売不振」

教育出版社協議会 (Educational Publishers Council) が発表した数字によれば、英国における1983年4月～1984年2月までの1年間の教科書販売実績は大不振を記録した。同期の販売額は、2.2%、金額にして150万ポンドダウンした。これは、小売価格指数を考えると、実質で550万ポンドの減少となる。

同協議会理事長のJ. ディビーズ氏によれば、「今期は更に悪化しており、4月から6月までの間に、教科書の購入は7%ダウンし、この傾向が今期を通して続けば、更に500万ポンド、実質で900万ポンドの減となろう」とのこと。(中略)

同協議会では、英・教育科学省は、政府特別財源を、コンピュータ・ハードウェアに使っているが、書籍販売状況を是正するための努力はなされていないとしている。(Publishers Weekly 1984年9月28日号より)

「HMSO 年次報告」

1984年3月末締めHMSO年間総売上は、電話帳の印刷から手を引いたため1%ダウンして、2億7,100万ポンドとなった。840万ポンドの支払利息を含む諸経費支払後の利益剰余金は、前期の450万ポンドから710万ポンドにアップした。

年次報告で最も顕著なのは、人件費の節約で、職員数を4,362人から3,660人に16%削減し、これにより人件費を450万ポンド節約して4,730万ポンドとしたことである。

出版部門は、定価値上りは控え目であったが、総収入4,350万ポンドに対し、利息支払前の剰余額は310万ポンドと好調であった。7,800点の新刊を出版し、43,000タイトルの在庫が新しい出版物センターに移転したほか、マイコンを使った書誌データベースの制作、電子出版の研究を進めている。

新刊のHMSO出版物の平均価格は、3.53ポンドで、Bookseller誌の算出した新刊出版物の平均価格13.28ポンドを大きく下回っているが、これは、HMSO出版物の多くが、ジャケットやイラストがなく頁数の少ない議会出版物で占められていることによる。(The Bookseller 1984年11月10日号より) ー紀伊國屋書店提供ー

来日外人名簿

- 10月下旬 Mr. Gerard Camblong, Export Manager,
Group International HACHETTE
" Mr. Jhon Moriarty, Houghton Mifflin Co.
" Mr. C. Michaletz, Managing Director,
Springer-Verlag (Berlin)
" Mr. M. Forster, Managing Director, L.E.A.
11月上旬 Mr. Byam Show, Managing Director,
Macmillan Pub. Ltd. (UK)
" Mr. W.S. Hein, William S. Hein
" Mr. S. Neal, Managing Director, Pitman
" Mr. L. Reines, President,
Mr. F. Zeller, Vice President,
Longman Group (N.Y.)
11月中旬 Mr. G. Edwards, Area Sales Manager,
Collier Macmillan International
" Ms. M. Schooler, Director of Sales, Far
East, Feffer & Simons
" Mr. Newman, Butterworth
11月下旬 Mr. J.J.G. Conibear, International Sales
Manager, Oxford U.P.

総代理店ご案内

- （株）紀伊國屋書店 ☎(03)354-0131
I.B. Tauris & Co. U.K.All Books
Nottingham Court Press, U.K.
Shakespeare Sonnets.
Neuer before Imprinted.
First printed in 1909. A Facsimile Reprint. 1984: 10
Full Leather Ed., Numbered, with A Miniature
Portrait on Enamel.
Signed by Lord Olivier.¥72,160
Full Leather Ed., Numbered.
Signed by Lord Olivier.¥41,360
Cloth-bound Ed.¥6,380
ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社
☎(03)291-4541
Polity Press, U.K.All books
University of Tennessee Press, U.S.A.All books
Open Court Publishing Co., U.S.A.Stockist
Rutgers University Press, U.S.A.Stockist

三洋出版貿易新刊案内

黒沢正彦・西村 徹 編

マークをうまく使うには

—機械可読目録入門—

1985年1月刊行予定 A 5判 300頁 予価2,500円(〒300)

さき頃、私たちは公共図書館でのコンピューター化について調査する機会があり、そのなかにマークの利用についての項を入れておいた。それによると、コンピューター導入の3割がマークを利用していることがわかった。これらの館では「整理業務の軽減」をトップに、「資料検索」、「総合目録の作成」などさまざまな利用目的を答えている。どれもが、これからの図書館業務に不可欠のものばかりである。

マークを利用するといっても、自館のフォーマットに変換したり、検索用にアクセス・ポイントを増やしたり、加工して使うものが多い。

ここでもひとつわかったのは、加工に際して、「変換時のミス」や「意外な手間」に悩まされるばかりでなく、他にも問題点がたくさんあることである。未利用館でもマークへの関心は大きく、意見や要望も多数寄せられている。なかに「資料そのものにデータが印刷されていて、それをなぞるだけで入力できるようにならないか」という意見があったが、これはマークの未来形を言っているとも考えられるし、マークというものの利点を裏書きしているとも言える。「詳しい説明書・資料・情報が少なすぎる」、「意見交換・具体的使用法のPRがほとんどない」、「手引書が欲しい」というものが多いが、参ったと思ったのは、「苦情・質問の持ち込み場所がない」というものであった。話は変わるが、三菱総合研究所によるジャパン・マークの検索実験サービスは既に100社を越える利用があるが、マークのデータとして従来あまり意義の考えられなかった官庁出版物の価値が認識されつつあるという。こう見てくると、マークは図書館や資料室にとって今や無視できないツールになったと言ってもよい。半面で従来の目録との相異や相関をどうするか危惧の念を持つ人の多いこともたしかである。

このような状況では、誰にでもわかる手引書の作成こそが最も緊急であると考えて、本書の編集に踏み切ったのである。読者はまずマークがどのような背景からどんな目的をもって作られたものか、これを作成・維持するための条件が明確にわかるはずである。そして、具体的にどんなマークがあって、どう利用するのが最良なのかを事例によって解説してある。今や市販マークは厳しい評価の洗礼を受けつつある。……

本書「序」より

内容および執筆担当者

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 序 | 黒沢正彦 (東京理科大学記念図書館) |
| 1. なぜマークは生まれたか | |
| 2. マークとはどのようなものか | 丸山昭二郎
(国立国会図書館) |
| 3. マークにはどのような種類があるか | 渡部満彦
(慶應義塾大学三田情報センター) |
| 4. LCマーク | 丸山昭二郎 |
| 5. ジャパン・マーク | 田村貴代子
(国立国会図書館) |
| 6. 日本で市販されているマーク | 戸田あきら
(世田谷区立梅丘図書館) |
| 7. マークはどう使ったらよいか | 鶴田真也
(国立国会図書館) |
| 8. マーク利用の実例 | |
| 8.1 文京区立図書館におけるマーク利用の実例 | 及川美知子 (文京区立水道端図書館) |
| 8.2 多摩市立図書館におけるマーク利用の実例 | 伊藤 峻 (多摩市立図書館) |
| 8.3 浦安市立中央図書館におけるマーク利用の実例 | 常世田 良 (浦安市立中央図書館) |
| 8.4 図書館情報大学におけるマーク利用の実例 | 石塚英弘 (図書館情報大学) |
| 8.5 国際基督教大学におけるマーク利用の実例 | 沢田 創 (国際基督教大学図書館) |
| 8.6 専門図書館におけるマーク利用の実例 | 山崎久道 (三菱総合研究所) |
| 8.7 情報機関におけるマーク利用の実例 | 黒沢正彦 |
| 9. マークの効用、限界、問題点、そして将来 | 渡部満彦
西村 徹 |
| 資料I マークに関する文献目録 | (産業能率短期大学) |
| 資料II LCマーク・フォーマット仕様 | 丸山昭二郎 |
| 資料III マーク変換プログラム | 石塚英弘 |



本 社 〒103 東京都中央区日本橋茅場町1-11-8(紅萌ビル) 電話03(669)3761 振替・東京6-82169
 大阪営業所 〒540 大阪市東区内平野町2-37(石井ビル) 電話06(947)1150 振替・大阪1-8265
 筑波営業所 〒305 茨城県新治郡桜村天久保1-13-1 電話0298(51)8091
 新居浜出張所 〒792 新居浜市西原町1-3-18(昭和ビル) 電話0897(32)2530

5910K1000

昭和59年12月 通巻第212号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

〒103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル603号室 ☎ 271-6901

〒530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎ 371-5329